

立命館大学 間文化現象学研究センター ダリン・テネフ講演会

対面＋
オンライン

指標性が持つ様相の謎

—— デリダとハイデガーにおける指標についての読解 ——

"The Modal Secret of Indexicality (Reading Indices in Derrida and Heidegger)"

2022年11月4日(金)

17:00～19:00 (開場16:40)

会場: 平井嘉一郎記念図書館 カンファレンスルーム
＋オンライン(ZOOM)



申し込みURL

<https://ritsumeai-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tJArf--vrDsvEtEz8voL9o9Ia9BX8vUkznex>

※会場にて参加する場合は、事前登録は不要です。直接会場にお越しください。

先着順でお入りいただきます(定員60名)。

※オンラインで参加する場合は申込URLより事前登録をしてください。

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

・講演 ダリン・テネフ Darin Tenev
(ブルガリア・ソフィア大学准教授)

・司会 亀井大輔(立命館大学文学部 教授)

・質問者 若杉直人(立命館大学大学院文学研究科)

ダリン・テネフ(DARIN TENEV)氏

ソフィア大学文学部文学理論学科准教授、プロフディフ大学哲学・歴史学部社会学・人間学学科准教授兼任(ブルガリア)。専門は文学理論、比較文学。著書(ブルガリア語)に『虚構とイメージ』(2012年)、『逸脱——ジャック・デリダについて』(2013年)。日本語の論文に、「デリダにおける贈与と交換」(『人文学報』首都大学東京人文科学研究科、511号、2015年)、「ほかにもこだまがこの園を棲家としている(翻訳の現象学に向けて)」(『立命館哲学』、第27集、2016年)、「世界文学のエピジェネティクス」(『世界文学と日本近代文学』、東京大学出版会、2019年)など。

【お問合せ】 立命館大学人文科学研究センター事務局 jibun@st.ritsumeai.ac.jp

【共催】 科研費・基盤B「20世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明」

立命館大学間文化現象学研究センター・立命館大学人文科学研究センター